

1 人と地球にやさしいエコ材料

●環境にかかる負荷の小さな「エコ材料」

「エコ材料」とは、それを作り出したり処分したりするの環境にかかる負荷が小さくて済むもの、と言うようなものです。それを作り出しても資源を枯らすことがない、使ったあと処分するときも、土に返るか小さなエネルギーで再生できるかするので困らない、そうした材料です。再生できても大きなエネルギーを使うのでは、環境にかかる負荷はエネルギーの消費量に応じて大きくなるので関心できません。

こう考えると、「エコ材料」の一例にまず自然素材があります。自然素材と言えば、ムクの木材がそうです。純粋な木材なので、張り合わせた合板や寄せ集めた集成材と違って、シックハウスをきつかけに問題視されるようになった接着剤を含みません。仕上げに用いる珪藻土・漆喰や和紙も自然素材です。塗料にも柿渋や漆といった昔ながらの自然素材がありますし、断熱材でも、最近で

は古紙や羊毛といった自然の素材を用いたものが始まるようになりました。なかには、古い民家で用いていた材を再利用して住まいづくりに取り組む人もいます。こうした古材は究極の「エコ材料」と言えるのかもしれない。

●「エコ材料」の利用は適材適所を心がけて

ここで考えてください。いまでもこそ「エコ材料」ともてはやされていますが、なぜ、これまでは必ずしもそうでない材を住まいに用いてきたのか？ 見た目がいい、手入れが楽、使う場所を選ばない、工事が楽、などなど。住む側にも建てる側にもそれなりの理由があつて広まったのですが、あとになって「こんなはずでは！」という結果になりかねません。

「エコ材料」は適材適所で使われてこそ意義があります。経験のあるプロとも相談しながらうまく使っていくきましょう。

「エコ材料」の王様・木材は適材適所で

ひのき	代表的な建築材。構造材から内外装材に広く使われ、檜普請といって良い建築の代名詞になっている。土台にはもっとも一般的。
べいひのき	ヒノキとまったく同じで、ヒノキの代替として重用される。
ひば	建築材としては耐朽力が大きく、土台、建具などのほか全般に使われる。
べいひば	建築材としてはヒバに準じる。
こうやまき	天井材・板類に加工される。器具・細工物にも用いられる。
くり	建築材としては土台がほとんど。家具に用いられることもある。
けやき	建築材としては内外装から構造材まで広く使われるが、価格の関係から床の間など主に外観を尊ぶ内装材に用いられる。
すぎ	代表的な建築材。構造材にも内外装材にもよく使われる。
べいまつ	建築材としてはアカマツと同様、特に大型のはりなどに使われる。集成材の原板。
べいつが	建築材としてはあらゆる部位、特に見え隠れの場所にスギの代用として用いられる。材の耐久性は低い、防腐剤の注入が容易なため、土台に広く用いられる。
からまつ	建築材としては、樹齢の高いものは内装材に多く用いられるが、一般には構造材が多く、土台にも用いられる。
あかまつ	建築材としては、強いので、はり特に丸太ばりなどの横架材に使われることが多い。木目を見せて床の間、上がりかまちなどにも使われる。
くろまつ	構造材や床材、造作材、家具などに使われる。

住宅金融公庫「住宅用木材の豆知識」から抜粋



「エコ材料」は生涯の環境負荷の小さいものと考えましょう。ムクの木材、土や紙など、自然素材は「エコ材料」の代表格です。失敗なく使うには経験のあるプロに相談しながら適材適所で。

2 自分が出したごみは自分で処理する時代に！

●生ごみは燃やさずに土に返す

ごみ処理にかかる費用はバカになりません。焼却場で燃やした灰を埋める処分場は、土地に限りがあるので、いつまでもというわけにもいきません。どこ自治体でも「ごみ問題」は頭の痛い問題。ごみの収集を有料化するなど、ごみの減量に躍起になっています。そうした事情もあって、最近では、家庭で出したごみを家庭で処理するようになってきています。

家庭から出るごみの多くは生ごみです。野菜くず、果物の皮、魚の骨、卵のから、……食べ残しもあるかもしれません。いろいろあっても、どれも土に返る点では一緒です。生ごみを分解して土に返してくれるのは、土の中に住むたくさんの微生物です。生ごみの大部分を占める水分さえきちんと切って土と一緒にしておけば、腐っていやな臭いがしたり、ハエが発生したりすることもありません。

●処理方法はいろいろ。戸建てなら土を使って

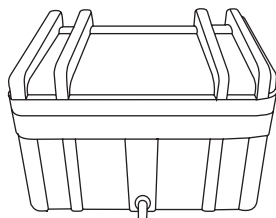
生ごみの処理にはいろいろなやり方があります。生ごみ処理機と呼ばれる機器を使う手もあれば、バケツや発泡スチロールの箱といった身近なものを 이용하는手もあります。電気エネルギーで乾燥させて水分を飛ばすだけのものもあれば、土をかけてあとは分解を待つだけという単純なやり方もあります。

戸建ての住まいなら、土の力をぜひ利用したいものです。それなら基本は同じ。水分を切って、土をかけて、微生物に働いてもらう、それだけです。生ごみを処理した後の土はもちろん堆肥にも使えます。庭で草花を育てる、ちょっとした野菜やハーブを育てる、そんなときに重宝するはずですよ。

住まいづくりを計画する段階では、キッチンから生ごみをどう出して、どこでどうやって処理するか、を考えよう。

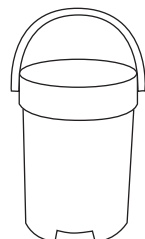
生ごみ処理機のいろいろ

断熱容器を使う



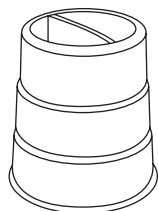
土と生ごみとを交互に重ねて入れていく。容器の中にざるを入れて二重構造にすると、水切れがいい。

密閉容器を使う (中ざる付きで水切りできるもの)



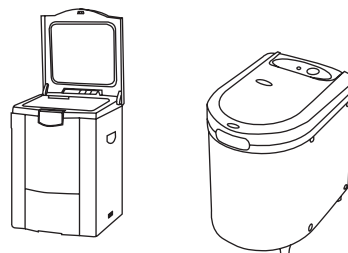
米ぬかのような発酵促進剤と生ごみを入れていく。しばらくして容器から土に移してねかせる。

コンポスト容器を使う



土の上に直接置いて、上から生ごみと土とを交互に重ねて入れていく。水はけがいい場所に置く。

家庭用処理機を使う



屋外に置くバイオ型(左)と屋内に置く乾燥型(右)とがある。バイオ型は土の代わりになる材を入れて、そこに生ごみを加えていく。乾燥型は生ごみだけを入れて、電気の力で水分を飛ばして減量する。



ごみ収集有料化の時代。生ごみの自家処理を検討しましょう。やり方はいろいろ。戸建てならぜひ土の力を利用しませんか。住まいづくりの段階で、キッチンからの生ごみの流れを考えます。

3

雨水利用と家庭用水の再利用

● 天の恵みは流してしまわないで

暮らしの中から出た生ごみを大地に返すのなら、反対に、天からの恵みを暮らしに生かしたいものです。それは雨水の利用です。大雨の日、雨どいを伝って滝のように流れ落ちる雨水をみすみす流してしまってもったいないと思いませんか。蛇口をひねって出てくるようなきれいな水でなくてもよい、水の使い道は案外あります。庭の水まき、どんこ汚れの下洗い、洗車、打ち水…。言わねば、外の水道を使うような場合です。こういったときには、雨水で用を足せます。

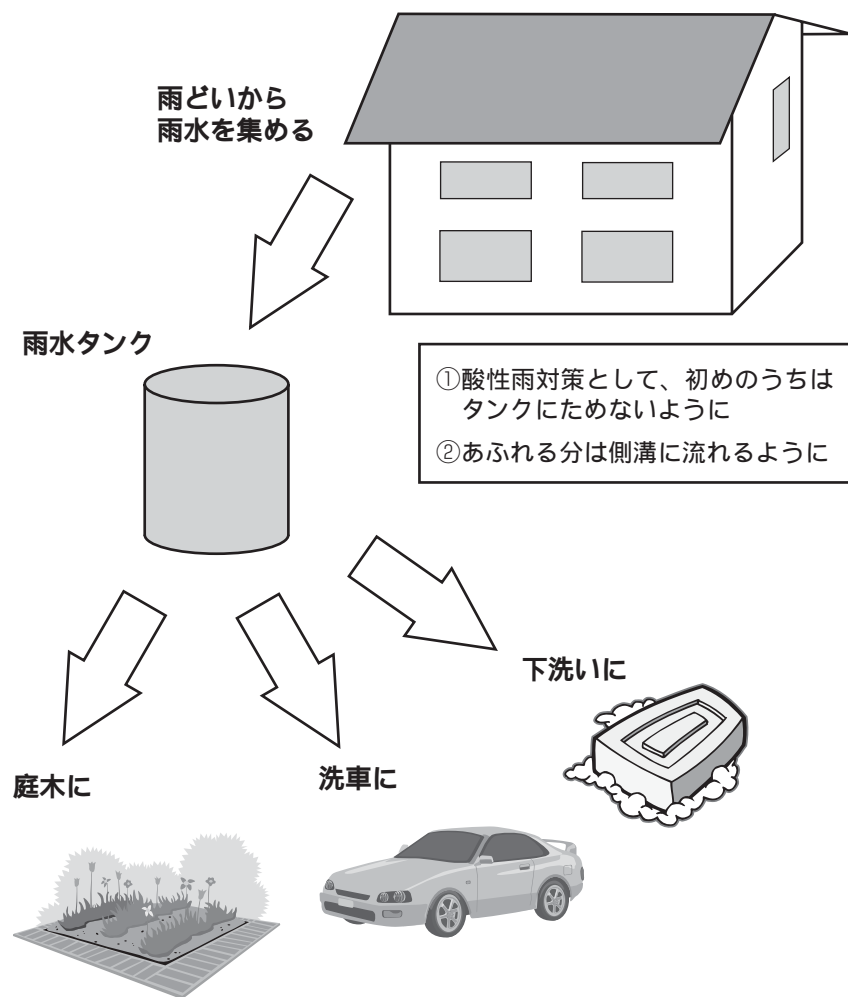
雨水利用と言っても、難しく考えることはありません。雨どいの下にでもドラム缶を置いて雨水を貯めて、使うときは、そこから水をひしゃくかなにかですくう、それで十分です。誰でもかんたんに、そして費用をかけることなく取り組めます。手押しポンプで井戸のように見せるのも、遊び心があって楽しいでしょう。

● 雨水に限らず、水を再利用できる工夫も

どういう仕組みで雨水を貯めて、なにに使うかは人それぞれ。いろいろなやり方があります。屋根に降る雨をできるだけ効率よくたくさん集める仕組みを考えてもいいでしょう。場合によっては、屋外や地下にタンクを設けて、そこにたつぷり雨水を貯めておけるようにしてもいいかもしれません。そこまでやるなら、室内でも使えるところに給水できる仕組みにしたいもの。例えばトイレに給水できるようにして、使用後の洗浄水として用いるのも一つの手です。

水は大事に使いたいものです。そう考えると、住まいの中で、一度使ったあとでも再利用できそうな水を循環させる仕組みや工夫を、もっと取り入れていいのでは。浴槽の残り湯を使える仕組みの洗濯機も出ていますし、昔の人が土間にかめを置いていたように、水をちょつと貯めておく工夫にも、知恵を絞りましょう。

雨水利用のやり方



外回りで使う水は雨水で十分。貯めて使いましょう。難しく考えないで。ドラム缶一つからでもできます。雨水に限らず、住まいの水の再利用を考えましょう。